

アオイトトンボ

Lestes sponsa

アオイトトンボ科



アオイトトンボ

名前の由来

「青糸トンボ」で青緑色をした糸トンボ、糸は腹部が細いためだと思われる。「トンボ」については、東北地方でトンボのことを「ダンブリ」「ドンブ」などといい、「ドンバ」→「トンバウ」→「トンバ」→「トンボ」となったのでは、という説がある。また「飛ぶ棒」が変化したものという説もあるが、「棒」が漢語であり、古代日本語としては不適切との指摘がある。漢字名：青糸蜻蛉

形態的特徴

体長38～43mm。オスは胸部から腹部にかけて光沢のある青緑色。メスにも光沢があるが、青緑色ではなく、緑色から黄色。翅を半開きにして止まることで他のイトトンボ類と区別できる。

類似種と見分け方：エゾアオイトトンボ。

交尾器の形と産卵管の長さで区別できるが、微妙な違いであり識別には注意が必要。

生息環境・分布

平地から山地の湿原、池沼に生息。

分布：ヨーロッパ、シベリアに分布。国内分布は、九州以

北。北海道内では全域に分布。

十勝地方では、平地から山地の湿原、池沼に生息している。

食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、魚の稚魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカやハエなどの昆虫類やクモ類を捕食する。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫になるとムシヒキアブなどの肉食性昆虫やクモ類、カエル類、大型のトンボ類、鳥類などに捕食される。

繁殖生態・寿命

卵で越冬し、産卵後約7ヶ月で孵化する。成虫は6月上旬から10月上旬に見られる。産卵は連結したままで行われ、抽水植物の組織内に産みつけられる。産卵時にオスメスと

もに完全に水没する場合がある。

寿命：幼虫期間約50日、夏前に羽化し、未成熟のまま夏を過ごし、秋に交尾産卵を行う(関西)。

興味深い話

■アオイトトンボという名だが、光沢のある青緑色であり、名前から想像できるイメージとは異なる印象を受けるかも知れない。むしろ、水色をしている他のイトトンボ類の方がアオイトトンボという名のイメージに近いかも知れない。

■このトンボは潜水して産卵することがあり、10分以上たっても浮上してこないことがある。

■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

配慮事項

他のトンボ類と同様に、池や沼の中に水草が生えていることが大事。羽化するときに水草に登って羽化する。池や沼

の周辺に樹木や草原があることも大事。羽化後の成虫の採餌場と休息場となる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成虫期												

参考文献

「蝦夷の蜻蛉」 広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993

「北海道のトンボ」 二橋愛次郎 エコネットワーク 2002

「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」 石田昇三・石田勝義・杉村光俊 東海大学出版会 1988

「講談社カラー科学大図鑑 トンボ」 枝重夫 講談社 1982

「日本産トンボ大図鑑」 浜田康・井上清 講談社 1985

「名前といわれ 昆虫図鑑」 栗林慧・大谷剛 偕成社 1987

「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」 更科源蔵・更科光、法政大学出版局 1977

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ